犬猫の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)対応の手引き【概要版】

1. 目的

- ●人獣共通感染症であるSFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染するほか、症状のある犬猫では、唾液を含む体液中に大量のウイルスが排出されることがあり、SFTSを発症した犬猫から、濃厚接触による人への感染も報告されている。
- ●これまで、SFTSの感染予防策としては、屋外でのマダニ対策を主として注意喚起してきたが、近年、 犬猫を介してSFTSウイルスに感染した可能性がある事例が相次ぎ報告されている。
- ●こうした状況をふまえ、本手引きは、犬猫における標準的なSFTS対策をまとめ、もって人の感染予防 及び犬猫の適正飼養の指導に寄与することを目的としている。

2. 通常時の対策 ~SFTS予防のために~

1 飼い主の対策

- ① マダニ対策の徹底
 - ・ 犬猫にはマダニ駆虫薬を定期的に投与する。 ・ 飼い猫は原則室内飼い。
 - ・散歩等で屋外からの帰宅時は、犬猫の体にマダニが付着していないか確認する。
- ② 感染を疑う症状が見られた場合の速やかな動物病院の受診 食欲低下、発熱(39℃以上)、下痢、嘔吐など

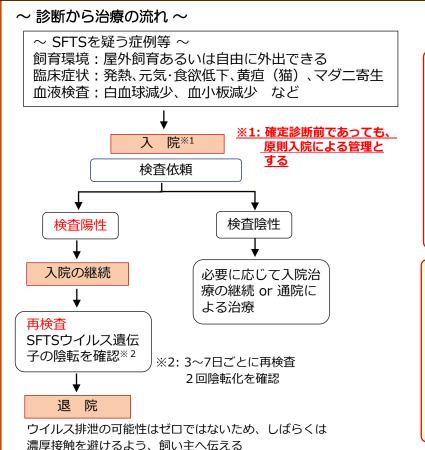
2 地域猫ボランティアなどで日常的に犬猫に接触する人の対策

犬猫に触った後は必ず手洗いする、過剰な接触は避けるなどの一般的な感染対策を心がける。 疑いのある犬猫を保護する場合は、体液に触れないようにする、咬傷に注意する。

3 公園など公共の場所で感染症が疑われる犬猫(負傷動物)を発見した場合

みだりに触らずに、速やかに管轄の保健福祉(環境)事務所へ連絡する。

3~4. 疑い発生時及び陽性時の動物病院における対応



~ 処置をする際の主な注意事項 ~

- ・個人防護具の装備
- ・ガウンは引っ掻かれても破れない素材のものを使用
- ・処置終了時の手洗いの徹底
- ・エリザベスカラーの装着など咬傷防 止対策
- ・咬まれた場合や体液等に汚染された 鋭利機材で受傷した場合は、医師に 相談(14日程度の経過観察)

~ 病院内での主なまん延防止 ~

- ・70%エタノール、0.5%次亜塩素酸ナトリウムが有効
- ・陽性時は、疑い時の個人防護具の装備に加え、グローブの二重着用が望ましい
- ・エアロゾル対策
- ・針刺し、咬傷に注意
- ・動物病院スタッフの健康管理

5. 犬猫がSFTSと診断された場合の飼い主等の注意事項

- 動物病院の獣医師の指導に従う。
- 体調に異常が見られた場合は、すぐに医療機関を受診する。

人の潜伏期間は6~14日。犬猫に触れてから14日程度は体調に注意する。主な症状は発熱、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛など。受診する際は、「犬猫がSFTSと診断された」ことを申告する。